

異なる法人でのネットワーク化（千葉県）

モデル事業前

地域基幹病院との連携に関する問題

- ・衛生材料供給、指示書発行
- ・退院調整不足
- ・近医との連携不足
- ・問題受付窓口、話合いの場がない
- ・訪問看護へ無関心と無理解
- ・低い訪問看護利用率
- ・最新の医療的処置への不安（ST側）

訪問看護利用者確保困難

地域外専門病院より情報入手困難の指摘

管理者の事業所経営に関する悩み

- **12の訪問看護STネットワーク化**
 - ・地域訪問看護ST連絡会を活用し悩みの共有。
 - 課題ごとのWG活動→全体討議。

合同で実施

- **地域基幹病院との連携促進**
 - ・看護部、訪問看護室、医療連携室と事業推進の話合い 2-3回/月
 - ・訪問看護利用により退院可能となる長期入院患者の発掘
 - ・病院-ST交流会（1回）、連携事例検討会（公開・院内各1回）開催

- ・訪問看護連携調整担当者の院内活動（相談、NST等との回診）2日/週

● 利用相談・情報発信の一元化



- ・合同で相談窓口を設置
- ・12訪問看護STの利用案内リーフレットの作成・配布

効果

基幹病院との連携促進

- ・訪問看護室、医療連携室の介在による問題改善
- 衛生材料供給、指示書発行、近医との医療連携
- ・訪問看護のイメージ化と重要性・有用性の理解、連携への意識向上
- ・活動を通じた‘顔の見える関係’形成
- ・最新医療的処置の学習

- ・訪問看護利用と連携課題解決にむけた協働体制の基盤構築

利用者増加の可能性

ST連絡会組織力の向上

- ・STの事情・能力に応じた利用者獲得への協働
- ・同経営研修の実施